

# 平成 26 年度 研究成果報告書

## Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ウルドゥー語・准教授
氏名 Name	北田 信
専門分野 Academic Field	ウルドゥー語学・文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	南アジアの口承文芸と芸能
<p>(1) ビンジャーブルのダカニー・ウルドゥー語の詩人ヌスラティエの『愛の園』を読み進み、和訳を作成した。ゴールコンダ(ハイダラーバード)の王クリー・クトゥブ・シャーの官能詩集の中から、季節感を歌ったものを訳した。これらについて2014年10月5日シンポジウム「前近代南アジアにおけるイスラームの諸相」(京大)で口頭発表した。いくつかの訳はプロジェクトの報告書に掲載される予定である。</p> <p>(2) カトマンドゥのネパール・リサーチ・センターにおいて、カーシーナート・タモート博士の助力を得て、『四幕からなるラーマ劇』の写本を解読した。これは、アパブランシャ語から新期インド・アリア語東部方言に移行する中間的な言語発展段階を示すものであり、かつ、この戯曲が著された時代のカトマンドゥ盆地内のパータン王国の王宮建築に関する具体的な記述を含む。さらに、ミティラー語劇『マダーラサー姫の誘拐』の原語テキスト校訂+翻訳+分析を行い、雑誌『印度民俗研究』に掲載される予定である。</p> <p>(3) パンジャービー語の古典文学の代表的な作品、ワーリス・シャー著『ヒールとランジャー』を読み進み、和訳を作成した。さらにそれを基に、口承文芸の様相、南アジアにおけるイスラーム伝播にともなう宗教文化混淆について考察し、科研報告書に掲載される予定である。</p> <p>(4) 北インド古典音楽に関してペルシア語で書かれた記述を翻訳した。13世紀のアミール・ホスロウがグジャラートの悲恋伝説を題材に著した物語詩『ヒズルハーンとドゥワルラーニー』中の婚礼の祝祭と、楽師や大道芸人を描写した箇所、および、ムガル王朝の18世紀に著された音楽理論書中のペルシア古典音楽理論を概観した箇所である。西・中央アジアから大量のムスリムが南アジアに移住した時代、ペルシア・トルコ音楽が南アジアの土着音楽と融合し、北インド古典音楽・歌謡が形成される。それは同時に、ウルドゥーやパンジャービーなどの新期インド・アリア諸語による文芸が形成された時代に重なる。従来あまり顧みられてこなかったムスリムの音楽文献を研究することにより、新期インド・アリア諸語の文芸の生成・発展過程を明らかにできるかもしれない。</p>	